

## Premium Textile Japan 2017 Spring/Summer



### 【開催報告】

- ◇ 日時 : 2016年5月24日(火)～25日(水) (10:00-18:30/18:00)
- ◇ 会場 : 東京国際フォーラム ホールE (展示ホール)
- ◇ 来場者 : パイヤー及び招待者限定 [入場無料]
- ◇ 出展者 : 書類及びスワッチ審査を通過した厳選出展者 (団体不可)
- ◇ 主催 : 一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 (JFW)
- ◇ 後援(予定) : 経済産業省



独立行政法人中小企業基盤整備機構 独立行政法人日本貿易振興機構

一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会 日本繊維輸入組合 日本繊維輸出組合

PTJは、昨年秋の開催で節目の10回目を迎え、今回の11回目から装いも新たにリ・スタートした。過去の好評な開催実績を背景に、今回も過去最高の出展申し込み数を更新。また、来場者数も回を重ねる毎に増加し昨年5月に行われたPTJでは初めて6,000人を超え、内パイヤーは85%と高い比率を維持している。今回は会場を東京国際フォーラム Hall.E1 に変わり、従来の1.5倍の規模で開催。同時にブース・デザインも一新し、場内各所に商談テーブルを増設、また、関連プログラムも新企画をスタートした。今回の会期は5月の末という遅さで、更に大手アパレルの展示会開催と重なり、当初は来場者数が心配されたが、結果的には過去2番目の来場者数を得る事が出来た。これはパイヤーにとっても、PTJは“真剣なテキスタイル・ビジネス商談会”として最も重要なイベントとなっている表れである。

□ 出展状況 : 96件/123小間 (PTJ2016SS実績: 80件 / 104小間)

ゾーン	件数	小間数	新規・復活(内)
A 織物短繊維(コットン、麻、ウール、複合)	37	46	8件/8小間
B 織物長繊維(化合繊、シルク、機能素材、複合)	21	34	3件/3.5小間
C 染色・後加工、プリント、刺繍・レース、皮革	21	24.5	4件/4小間
D 服飾素材、ニットファブリック、撚糸、パイルファブリック	15	17.5	3件/3小間
メディアスタンド	2	0.5	
合計	96	123	19件/19小間

■PTJ2017SS 出展者 内訳

	件数	小間数	新規・復活(内)
国内	84	112.5	13 件/13.5 小間
海外	10	10	5 件/5 小間
合計	95	123	19 件/19.5 小間

\* 海外出展: 10 社 (韓国×2、中国×2、タイ×3、インド、トルコ、アメリカ) \* 新規出展: 12 社

□ 来場者数

TOTAL: 6,005 名 (PTJ 開催 11 回目中、2 番目の動員数)

○ 内訳:

- アパレル・小売 2,621 名
- 問屋・商社 2,471 名
- PRESS 56 名
- 主催関係者 64 名
- Visitor 793 名

\* バイヤー比率 85%

○ 日別: 5/24(火)2,602 名、 5/25(水)3,403 名



○ VIP 来場者

- ・ 経済産業省 製造産業局 糟谷局長、繊維課 寺村課長(5/24 10:00-)
- ・ 経済産業省 製造産業局 小林審議官 (5/24 13:00-)
- ・ 海外需要開拓支援機構(クールジャパン機構)代表取締役 大田社長 (5/24 14:00-)
- ・ (株)日本アパレル・ファッション産業協会 廣内理事長(5/24 15:00-)
- ・ タイ国大使館 ナッティヤー・スチンダー公使、チャナンヤ・ガモンヤブット商務公使参事官
- ・ 東レ(株) 代表取締役 日置社長(5/24 13:30-)

<JFW 三宅理事長、平井副理事長(5/24 10:00-) >

□ トレンド・コーナー&インデックス・コーナー

毎回趣向を凝らした施工と演出で来場者の目を引くトレンド&インデックス・コーナー。今回はホール面積が広がったことから久々に展示ホール内に設置した。施工デザインはミラノ、上海同様のコンセプトで“大壁面の連続で空間を構成。大きくくり抜かれた窓から景色を愛でる様をイメージ”、未来への可能性を進化させたジャパン・テキスタイルを風景として写し出している。特に中央に吊り下げられた大きな提灯をアイコンとし、一際、印象的なコーナーに仕上げられた。



<TREND コーナー テーマ別展示点数>

- 「妄想ミステリアスな巡礼」 171 点  
「女たちに捧げるロマンチック物語」 180 点  
「音楽と美術のモードな交差点」 171 点  
「充実した贅沢な一日の休日」 172 点 : 合計 694 点  
<INDEX コーナー展示点数> 273 点



□ **会場レイアウト** <別添資料 2 参照>

会場拡張に伴い、出展者数が過去最大の 96 社 123 小間(前年比 118%)となる今回、長年の課題だった混雑緩和を図る。特に出展者・来場者双方からリクエストが多かった通路幅の拡張に関して、今回は最も狭い処で 2.5m、大半が 3m 以上を確保。また、極カクランクを排し回り易いレイアウトとなっている。同時にビジネスラウンジも 2ヶ所とし、通路中央の商談テーブルを合わせると、従来の 2 倍以上の商談テーブルを設置している。更に、会場の所々に観葉植物を設置し目にも優しい会場となっている。



□ **新型ブースの導入**

第 10 回目まで使用した PTJ ブースは、第 1 回目の会場(TEPIA、スタジアムプレイス青山)が、展開面積が狭く天井高も低い事から、サイドパネルを低くし(H 1.8m)半透明のパネルとする事で閉塞感を軽減する狙いがあった。しかし現在では、天井高が十分の東京国際フォーラムに移り、第 11 回目を迎えた事で、リ・スタートの意味もあり今回より新型ブースを導入した。新型ブースでは半透明パネルをやめ、白パネルに黒フレームというよりシャープなデザインに変更。また背面・サイド共 H 2.4m パネルにする事で従来比 122%の壁面面積を確保している。総じて出展者・来場者の双方から評価が高かった。



□ **Textile Workshop ～日本の素材を学ぼう！～**

PTJ 第 1 回から 10 回まで開催してきた「ビジネス・マッチング・プログラム」に代わり、今回より新企画「Textile Workshop ～日本の素材を学ぼう～」をスタートした。  
この新企画実施の背景は、ここ 10 年、アパレルの企画業務のアウトソーシングが進み、製品仕入れ、OEM/ODM 取引の常態化により商品企画に携わる人達の産地や素材の知識低下が問題となっていた。

そこで、JFW では業界人となって間もない(職歴5年未満)商品企画従事者を対象に、“寺子屋”をイメージした Textile Workshop を企画。PTJ 出展の産地企業人を講師として招き、毎回対象素材を変えたレクチャーを行う事で、日本製素材や産地への認識を深めて貰う事を目的とする。

## 【プログラム内容】

### 【1】日本の素材産地とは・・・

【講師】JFW テキスタイルコーディネーター 井上 佐知子 氏／久山 真弓 氏

### 【2】産地レクチャー

★24日(火)＜リネン＞ 【講師】株式会社麻絲商会 中辺 雅昭 氏

株式会社麻絲商会...滋賀県『湖東産地』の麻素材を中心としたテキスタイルメーカー。天然素材から複合素材まで生地企画・開発は勿論のこと、糸商でもあり、各種麻糸からオリジナルの糸の紡績も行っている。

★25日(水)＜コットン＞ 【講師】鈴木晒整理株式会社 専務取締役 鈴木 利尚 氏

鈴木晒整理株式会社...静岡県浜松市『遠州産地』の、衣料用天然織生地の染色・整理工場。国内の百貨店・専門店アパレルや欧米諸国の著名ブランドの製品となる加工を多数取り扱う。

### 【3】テキスタイル合同展示会 来場のノウハウ／Q&A

PTJ などテキスタイル合同展示会の商談やブースの見かた等のノウハウを解説。

#### ＜講演内容と参加者の声＞

○久山氏は産地 MAP を用いて、北は米沢産地から南は備後、今治産地まで 19 産地の特徴を解説。

○24 日(株)麻絲商会の中辺氏は湖東産地で麻織物が発達した理由を「麻は水分を含むと強度を増す性質から、琵琶湖のもたらす湿気が麻織物の生産には最適だった」と解説。また「水撚り」と云った産地独自の技術に触れながら「一緒にモノ作りをするためにも、ぜひ産地を訪れて欲しい」と訴えた。

○25 日:鈴木晒整理(株)の鈴木氏は紡績、準備工程、織布工程、染色整理と各工程をレクチャー。

その中で「モノ作りは無限。多くの専門家と接点を持てば自分のモノ作りが出来る」「海外情報をリプロする時代ではない。世に無いモノを生み出す事が重要」と説いた。

参加者からは「産地の場所と特徴が解り易く、勉強になった」、「これからどうい生地を作ったらいいか迷っていたが、良いヒントになった」「加工の知識を初めて得た。これから活かしたい」等のコメントが聞かれ、早くも同プログラムの継続開催を望む声が多かった。

